

## 台湾研修

### 高級スーパー裕毛屋でのブドウの販売プロモーション セントラルキッチン(食研中心)でのインターンシップ

## 丹原高ブドウ 台湾で好評

台中市のスーパーでブドウの販売研修に取り組み  
丹原高生ら(同校提供)



### 生徒10人 高級スーパーで販売

農産物の生産工程に関する国際規格「グローバルGAP」の認証を受け、校内のハウスでブドウを栽培している丹原高校(西条市丹原町願連寺)の生徒10人が9月上旬、台湾のスーパーで販売研修を実施した。な

## 積極的に声かけ 85房完売

加工食品工場で、台湾料理やスイーツなどに使う生地作りも体験した(丹原高提供)



実習は台中市の高級スーパー「裕毛屋」の店頭で2日間あり、生徒は校内で大切に育てたシャインマスカットを売り込んだ。生徒らは現地の人との関わりを通じて、商品を販売

かなか立ち止まってくれない買い物客に、習得した台湾語で積極的に声をかけ、試食を勧めて身ぶり手ぶりで味の特徴を説明。用意した85房は完売した。

(伊藤義樹)

くれた。積極性とコミュニケーション力が身に付いた反面、台湾の食文化や歴史などを知る必要性も感じた」と話した。  
将来は海外で働きたいという園芸科学科3年藤澤慶衣さん(18)は「海外への興味も強まり、働く場所や働き方など将来の選択肢が広がった」と述べた。  
販売実習後は裕毛屋の加工食品工場でのインターンシップ(就業体験)もあり、台湾料理「肉円(バーワン)」やスイーツなどの製造を体験した。同科3年桑名海星さん(18)は「製造工程のほとんどが手作業であることに驚いた。徹底した衛生管理の中でしっかりと作業をしていく」と話した。  
丹原高では2018年から台湾で販売実習をしており、生徒が店頭に立ったのは今回で4回目。

10名の生徒が参加しました。ブドウの販売プロモーション活動は盛況、台湾企業でのインターンシップ、最先端技術工場見学など、台湾の産業、文化・歴史、現地の方と触れ合い、生徒の人生において、かけがえのない、充実した研修となりました。